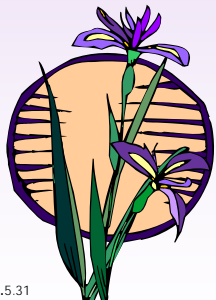


News Letter

5月

新潟大学へ
行ってきました号

2011.5.31

■新潟大学へ行ってきました。



2月9日に、新潟大学の女性研究者支援室を訪問してきました。

新潟大学は、農環研より1年先行して、女性研究者支援事業を実施しています。メンター制度導入にあたり学生と教員全員にアンケートを実施し、メンティーだけでなくメンターとなる教員にも受け入れやすい制度の工夫がとられていました。一例としては、キャリア支援と両立支援でグループ化することでメンター同士の連携を図るなど。

また、“新大シッター”という職員のための土日の保育支援制度は、学生を巻き込み機能的に運営されていました。

平日の病児保育について尋ねると、新潟市内にはクリニック併設の病児保育が数か所あり、ほとんど困らないとお話でした。これには正直驚きました。

また、理学部の女性准教授のお話を聞く機会があり、学生の指導から、予算獲得、自治体の委員など多様な仕事に取り組み、キャリアを形成していく上で大事な点をアドバイスいただきました。

今回の訪問では、女性研究者支援を推進する際に、多様な働き方を選択できる環境を整備するとともに、意識改革が重要であることを再確認することができました。（文責：大浦）

— <一緒に情報収集に行った下村さんの感想> —

新潟大学では、支援事業が学生さんの教育と結びついた素晴らしい体制を整えておられることに感銘を受けました。また、女性で教員をしておられる伊藤先生から、教育・研究を行う上で大切にしておられるご姿勢についてお話を伺う機会を頂きました。ご自身の研究が自立していることはもちろんのこと、相手の話をきちんと聞くこと、他の研究者の研究に興味を持つこと、他の機関と共同研究を行うこと、情報を敏感にキャッチし、すぐに行動に移せる瞬発力を持つことをとても大切にしておられました。広い視野と柔軟性のあるご姿勢に深い感銘を受け、私自身の目標になりました。